

2. 高校教育に対する社会各層の教育

要求

1. 教育課程改革について

世界各国において教育改革が切実な問題となりつつある現在であるが、特に後期中等教育の内容が改革の対象となっている。

日本でも中教審あたりで問題とされ、産業界からはその立場での改革への期待がよせられ、自然科学の立場での専門学者のカリキュラムの面における発言研究がなされつつある。

これに対して学校教育の現実の対応の仕方ははるかに立ちおくれているとはいえないだろうか。私達もこの動向に対して身のまわりの人々の意見を調査して後期中等教育の在り方の一端を探って見た。

対象 経営者 26名 学者 38名

現場教師 40名

調査項目

調 査 票

この調査は教育研究上の統計的資料として利用させていただきますが、個人の意見をそのままとりあげるものではありません。お考えを率直に記入していただき、この調査研究に御協力下さい。

- 現在日本の高校への進学率は70%をこえて（アメリカは93%、ただし相当数途中でやめる。イギリスは37%）いますが、現在普通科の教育内容をこなしてゆけない者が在学生の1/3近くもあるとの報告（12月初旬各新聞）も出ています。これらを考えあわせて、次の意見のうちでどれか一つに○をつけて下さい。
 - ア. 高校は全員義務制にすべきである。
 - イ. 希望者は全員入学させるべきである。
 - ウ. 国民全体の水準から考え、現状程度で充分である。
 - エ. 社会的必要度からみて、それほど進学する必要はない。
 - オ. 能力のない者まで進学させることはのぞましくない。
- 高校から大学への進学率も高くなっています（同年令の青年のうち大学生の比率はアメリカ40%、日本20%、ソ連15%、イギリス9%、フランス8%、ドイツ6%）がそれについて次の一つに○をつけて下さい。

ア. もっと大学の数を多くし、希望者はなるべく多く進学させたい。

イ. 現在の大学の数は多すぎるから、もっと少くした方がよい。

ウ. 大学への進学率は現状程度でよいと思う。

- 世界の主要国の大学の理工系（理工医農など）・法文系（法経文など）の比率は右の表のようになっています（日本は3・7ただし国立大学のみでは7：3となる）

これを見て、下のどれか一つに○をつけて下さい。

	理	文
アメリカ	4	6
フランス	4.5	6.5
西ドイツ	5	5
イギリス	7	3
ソ連	8.5	1.5

ア. 国立大学が7：3であるから現状程度でよい。

イ. もっと理工系の比較を多くしなければならぬ。

ウ. 国立は全部理科系にして、文科科は私立に任すべきである。

イの場合理：文の比率はどの程度にまでしたらよいとお考えですか。

9：1, 8：2, 7：3, 6：4, 5：5, 4：6

- 現在大学の入試制度が問題となっていますが、それについて次の意見の一つに○をつけて下さい。

ア. 現在の入学試験で能力ある者が進学できれば、それで結構だと思う。

イ. 現在の入試制度は弊害が多いから全国統一の能力検査にすべきである。

ウ. 各高校の内申書を中心として能力のある者を進学させればよい。

エ. 各高校からすいせんされた者を中心に能力ある者をえらべばよい。

オ. 進学希望者は全部進学させ、途中で落第させればよい。

- 現在世界各国の高等学校のカリキュラム（教育課程）はほぼ次の四つのタイプとなっています。今後の日本としては次のどのタイプが最も望ましいと思われませんか。この中で一つに○をつけて下さい。

ア.〔国語・社会・数学・理科・英語〕と〔体育・芸術・家庭〕とをそれぞれ5：2の時間配当で履習させ、大はばに全員に必修（現在の日本）

イ. 少数の共通必修科目と大はばなる選択科目とから編成（アメリカ）

ウ. 文科コースと理科コースとにわかれ、それぞれについて必修させる（西欧・ドイツ・フランス）

A. 高校普通科の教育課程改革の問題

- エ. 科学技術に重点をおいて全員に必修 (ソ連)
6. 高校の学習をすすめる上で、能力とか、進路とかを考えて、普通科の中で更にコースをわけたらよいという意見もありますが、それについて、次のどれか一つに○をつけて下さい。
- ア. 同じ内容のものを同じコースで全員履習することがのぞましい。
- イ. コースを内申とか、能力とか、将来の希望とかによって同じ学校内でいくつかのコースに分けるのがよい。
- ウ. コース別に、それぞれ別の学校をつくるのがよい。
7. コースをわけることについて、英才コース・文理コース・就職コース・女子コースなどにわけるといいう案が出ていますが、それについてどのようにお考えになりますか。
8. 科学教育についての御意見がありましたらお書き下さい。
9. 道徳教育についての御意見がありましたら、お書き下さい。
10. その他、高校教育についての御意見がありましたら自由にお書き下さい。
- 職名 _____ 氏名 _____

高校教育改革に関する調査 (1表)

問	各層	経営者	学 者			現 場 教 師				計
			文科系	理科系	計 (不明含)	小中学校	高校	不明	計	
1	ア	0	2	0	4	4	0	1	5	9
	イ	6	3	6	12	3	3	5	11	29
	ウ	3	3	1	7	1	2	3	6	16
	エ	2	0	1	1	1	1	0	2	5
	オ	15	3	9	14	4	6	6	16	45
2	ア	3	3	1	6	7	3	7	17	26
	イ	12	3	5	11	2	6	2	10	34
	ウ	10	4	9	18	4	2	5	11	39
3	ア	3	4	8	15	5	1	4	10	28
	a 9:1	0	0	1	1	0	0	1	1	2
	b 8:2	0	1	1	3	1	0	2	3	6
	c 7:3	1	1	3	5	0	2	1	3	9
	d 6:4	10	1	2	6	4	3	1	8	24
	e 5:5	7	4	0	7	1	2	4	7	21
	f 4:6	1	0	0	0	0	3	0	3	4
	イ	19	6	9	20	7	10	11	28	67
ウ	2	0	0	0	1	1	0	2	4	
4	ア	12	3	2	7	2	6	5	13	32
	イ	6	1	3	8	1	2	1	4	18
	ウ	2	3	3	8	3	1	2	6	16
	エ	3	2	1	3	0	3	1	4	10
	オ	2	0	6	10	8	0	5	13	25
5	ア	13	5	4	13	7	5	6	18	44
	イ	1	1	3	5	5	2	5	12	18

共 同 研 究

	ウ	11	3	9	17	1	4	2	7	35
	エ	1	1	0	2	0	1	1	2	5
6	ア	10	7	7	19	6	2	6	14	43
	イ	8	2	7	11	4	8	6	18	37
	ウ	5	1	3	6	3	3	3	9	20

(註) 調査書の中には無答がある。

1. 高校進学率の問題について

全体としてイ。(希望者全員入学)オ。(能力のないものまで入学させるのは望ましくない)が多い。

ととくに経営者はオ.の意見が強く、技術革新産業構造の高度化に伴う複雑な現実を処理できる技術者・管理者の養成に力を入れ、能力主義的な考え方があって当然である。

2. 大学進学率の問題について

経営者は大学が多すぎるという意見が特徴で中卒・高卒の労働力の不足も主張している。これに対して現

場教師(特に小中校)は大学を増やせという意見が多く、大学入試の波紋に対する現場の立場を主張している。

3. 理工系の比率の問題について

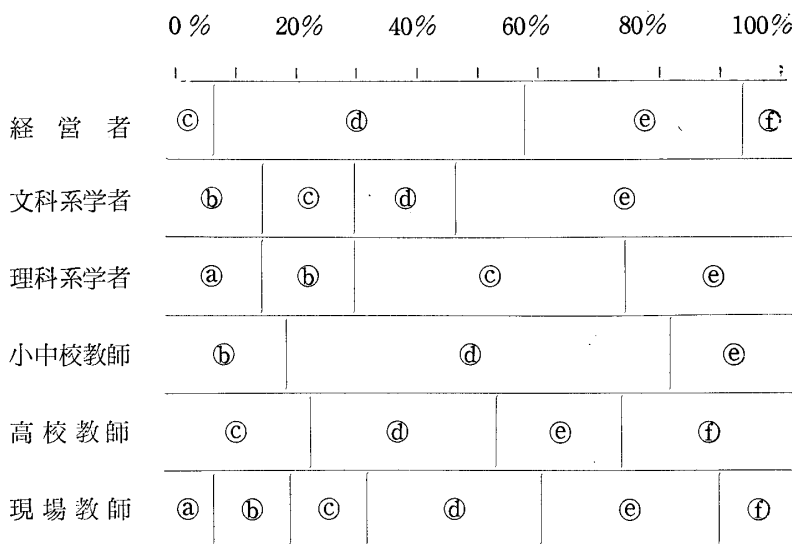
イ(もっと理工系の比率を多く)が最も多い。

ア。(現状程度でよい)がそれに続いている。

これも科学の進歩にともなって考えられる一般的なすうせいではないかと思う。

理工系大学：法文系大学の比率について次の図のような希望がでている。

9:1...① 8:2...② 7:3...③ 6:4...④ 5:5...⑤ 4:6...⑥



上の図から理科系学者と文科系学者には意見の差があり、現場教師の希望は広い範囲にわたっている。

4. 大学の入試制度について

経営者はア(現行)を支持している。ハイタレントの養成ということを考えれば十分現行で目的は達せられるからであろう。

学者は種々の意見が平行している。

現場教師はアとオ(全員入学させ途中落第)の意見が強い。これは現行大学入試制度に対して現場の立場

を主張していると考えてよい。

5. 高校のカリキュラム

7.のコース分けについてのアンケートを見てもわかるが、全体的にあってア(現行),ウ(文理コース別)が多く、ただ現場教師の間にはイ(少数の必修と多くの選択)がかなり多いのが目立っている。

6. 高校のコース別について

経営者学者はア(同じコースで全員履習)が多い。現場教師はイ(コース別)の意見が多い。

A. 高校普通科の教育課程改革の問題

7. コース分けについてのアンケート

(2表)

	経営者	学 者			現 場 教 師				計	
		文科系	理科系	計	中小 教師	高校	不明	計		
コース分けは望ましくない	12	6	5	11	5	1	5	11	34	
コース分けは 望ましい	文理コース	8	2	6 (1)	8 (1)	3	4 (1)	3	10 (1)	26 (2)
	就職(進学)コース	3 (1)	2	3 (6)	5 (6)	4 (2)	3 (2)	3	10 (4)	18 (11)
	女子コース	2 (1)	1 (2)	(5)	1 (7)	3 (4)	(3)	(2)	3 (9)	6 (16)
	英才コース	2 (2)	1 (2)	(6)	1 (8)	1 (1)	1 (4)	(3)	2 (8)	5 (18)
	個性能力に応じた コース	2	(2)	(3)	(5)	2	4	1	7	9 (15)
	学校別に コースを分ける	1	1 (1)	2 (3)	3 (4)	3	3 (1)	2	8 (1)	12 (5)
	計	11	4	12	16	6	8	6	20	47

(注) ()内は反対者の数をしめしコース分けをすることを望む者も望まない者もこのコースには反対している数

コース分けを望まない主な理由

- ① 高校では個性能力はわからないから分けるのは早い。
- ② 高校は全人的な教養をつける必要があるから分け

る必要がない。

- ③ 英才とは何であるかわからない。
- ④ 選択制にしてホームルームはくずさない。
- ⑤ 学力は向上するが生活指導の問題点が境す。

8. 科学教育についての意見

(表3)

意見	各 層 経営者	学 者			現 場 教 師			計
		文科系	理科系	計	小中学校	高 校	計	
内容の高度化, カリキュラムの再編成。英才教育。物理数学を大切に。	1	1	5	6	1	2	3	10
科学教育は基礎を大切。素養をつける。実験重視	4	0	9	9	3	2	5	18
設備の充実, 国家的施策。科学技術者の優遇。教師の充実。	6	2	4	6	4	4	8	20
科学教育を進めよ。世界の勢に遅れないよう。	3	0	1	1	1	3	4	8
小中高大の一貫化, 現状でよい。見学を多く。日常生活に。	2	1	1	2	2	1	3	7
科学技術の偉大さをしらせる。創造性を高める。	0	3	0	3	0	1	1	4
科学教育ばかりでなく, 総合的教育必要。	2	2	0	2	1	1	2	6
独占資本に注意。宗教と科学教育の融合。テスト偏重ではため。	1	0	0	0	1	2	3	4

共 同 研 究

科学教育についての意見は大別すれば、内容の高度化と基礎学力の充実に分けられるが、全体的に見て

基礎学力の充実の方が大切であるという意見がやや強い。

9. 道 徳 教 育 に つ い て の 意 見

	経営者	学 者			現 場 教 師			計	
		文科系	理科系	計	小中校	高 校	計		
反 対	1	1	3	6	4	1	6	13	
賛 成	21	8	12	27	8	13	29	62	
賛 成 内 容	強化すべし	12	3	2	8	1	7	11	31
	宗教的情操	1	0	0	0	1	0	1	2
	旧制高校的全人教育	1	0	0	0	0	0	0	1
	教師の人格的感化	1	0	1	1	0	2	2	4
	新しい道徳教育を	5	4	7	14	3	4	11	30
	家庭社会の道徳教育こそ必要	1	1	2	4	3	0	4	9
意 見 な し	4	0	2	2	1	1	3	9	

新しい道徳教育を希望する人の中には

- 個人の自覚と改革
- 主張のみ多く責任感がない。新時代に即応した道徳教育をのぞむ。
- 自分自身にとってよい社会とは一どのようなルールをもった社会かを教えること。
- 可変的な徳目に対して不変的な徳目も必要。
- 個人を前面に出しすぎだ。社会との関連が看過され

ている。

- 迷惑をかけない楽しく生きるためのもの。政治的なおしつけは困る。
- 体制道徳（修身的）に反対。集団の中で自主的に（人間的幸福への）道徳をもっていく。
- 心理的発達段階に即して道徳教育が必要。
- 心のよりどころがない。
- 必要だが方法が問題。

10. 高 校 教 育 一 般 に つ い て の 意 見

意 見	各 層 経営者	学 者		現 場 教 師		計
		文科系	理科系	中小校	高 校	
A. 高度の人間形成	9	2		1		12
1. エリート, 高い理想の人格形成	4					4
2. 個性情操, 教者の重視, 人間性の回復	3	2		1		6
3. 精神教育の必要不屈の精神	2					2
B. 生活教育, クラブ活動, 特活	1		1	2		4
知育・徳育・体育のバランス			1			1

A. 高校普通科の教育課程改革の問題

C.	基礎教育の重要性	2					2
	進学中心の高校教育に反対しもっとのびのびと	1	2	2	1	1	7
	高校教育の教務化						
	きびしいしつけ, きびしい勉強態度				1	2	3
D.	専門教育, 職業教育, 労働教育, 実業教育	1	1			3	5
E.	小中高大の一貫性を再検討		1	4	1		6
	大学の改革が先決			1			1
	旧制高校の復活			1			1
	カリキュラム, 選択性, 合理化, 学校差の解消		1	1	1		3
F.	教師の質の向上, 使命感のある教師	2		1	1		2
	設備, 教師の研究時間		1				1
	学級定員を40人~45人に	1					1
	その他	1			1		2
	無記名	12	1	5	3	6	27

(持田・加藤+)

3. 全国附属高校の教育研究の動向

全国国立附属高等学校の最近10年間における, 教育研究題目を収集・整理し, そこから教育の動向を察知しようと計画したものである。

資料は 各校の御協力を得て, 充分ではないが, 大体のところ集めることができたので, これを分類・整理したものが, 次の通りである。

ただ, 今回は中間報告として, 資料の分類したものを発表するにとどめ, 動向に対する意見は, 次回にしたいと考えている。

資料は, A.教育一般 B.カリキュラム教育内容と方法 C.生徒指導 D.学校管理 E.図書館と視聴覚 F.教育実習 G.専門研究の7種類に分類し, 昭和31年度から昭和41年度までの研究題目の件数を一覧表にしたものである。

(佐伯・富田)

総一覽表	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	計
A. 教育	4	3	4	3	3	2	2	1	2	1	2	27
B. カリキュラム教育内容と方法	34	28	22	39	45	34	18	40	37	32	8	337
C. 生徒指導	3	8	5	4	5	10	6	9	7	6	1	64
D. 学校管理		1	1	1					1	1		5
E. 図書館と視聴覚	3	1	1	2	1	3	1	1	1			14
F. 教育実習		1				2	1	1				5
G. 専門研究	3	9	12	13	14	19	5	10	8	12		105

A. 教育	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	計
1. 教育原理的研究							1	1	1	1		4
2. 教育心理学的研究	1	2	1	2	2	1	1		1		2	13
3. 教育社会学的研究		1	3	1		1						6
4. 比較教育的研究	3				1							4
計	4	3	4	3	3	2	2	1	2	1	2	27